

■若山牧水 歌人。酒と旅を愛した歌人として親しまれ、その作品は広く愛誦された。

わかやまぼくすい

内閣発足・1885＝ 宮崎県白杵郡坪谷村で、武蔵国出身の医師の家系若山立蔵の長男に生まれる。母はマキ。本名繁。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

帝国議会始・1890＝ 5歳：一家で西郷村田代に移住。

大本教・・・1892＝ 7歳：田代尋常小学校に入学、羽坂尋常小学校に転校後、一家で坪谷村に戻り、坪谷尋常小学校に転校、

日清戦争始・1894＝ 9歳：

白馬会・・・1896＝11歳：卒業し、延岡高等小学校に入学。

Bushidou・・・1899＝14歳：卒業し、第一回生として、延岡中学に入学、

ピアノ/国産化・1900＝15歳：初めて短歌をつくり、

田中正造直訴1901＝16歳：校友会雑誌が出ると短歌や俳句を発表し、東京の雑誌{中学文壇}にも投稿、

教科書疑獄・1902＝17歳：同級生と回覧雑誌{曙}を始め、{野虹会}を起こし、諸雑誌に歌や文章を盛んに投稿、

日比谷公園・1903＝18歳：新任の英語教師から文学に専念することを勧められ、初めて牧水と号する。

日露戦争始・1904＝19歳：卒業し、上京して早稲田大学予科に入学する一方、尾上柴舟に師事し、

日露戦争終・1905＝20歳：柴舟を中心に、前田夕暮らと{車前草社}を結成。

満鉄発足・・・1906＝21歳：北原白秋・土岐善麿らと交友して回覧雑誌を発行し、国木田独歩などを愛読して自然主義にも親しむが、

韓国反日暴動1907＝22歳：\*恋愛に苦しんで、独自の牧水調に開眼、傑作'幾山河・・・'。

アヲチ'創刊'・1908＝23歳：早稲田大学英文科を卒業。処女歌集「海の声」を自費出版。

伊藤博文暗殺1909＝24歳：{中央新聞社}に入るも、すぐに退社。

韓国併合・・・1910＝25歳：\*第2歌集「独り歌へる」を出し、これらに新作を加えた第3歌集「別離」で一躍歌壇の花形になる。傑作'白玉の

・・・'。{創作}創刊に関して編集を担当し、

創作社を結び、みずからの主宰誌とする。第4歌集「路上」以後自然主義的傾向を深める。

明治天皇没・1912＝27歳：「牧水歌話」出版。太田喜志子と結婚。第5歌集「死か芸術か」。父が死去。

大正政変・・・1913＝28歳：長男が誕生。上京し、第6歌集「みなかみ」、

第一次大戦始1914＝29歳：第7歌集「秋風の歌」、

21ヶ条要求・1915＝30歳：妻の保養のため、下浦海岸に転居。長女が誕生。第8歌集「砂丘」。

民本主義・・・1916＝31歳：東北地方を旅行。散文集「旅とふる郷」。第9歌集「朝の歌」。東京小石川に転居。

ロシア革命・1917＝32歳：「和歌講話」出版。妻との合著で、第10歌集「白梅集」。

本格政党内閣1918＝33歳：次女が誕生。関西地方を旅行。第12歌集「溪谷集」第11歌集「さびしき樹木」、散文集「海より山より」。

ハルビン条約・1919＝34歳：浅間温泉ほかに遊ぶ。紀行文「比叡と熊野」出版。

大暴落・・・1920＝35歳：湯ヶ島温泉に遊ぶ。沼津に転居。「批評と添削」出版。

原敬首相暗殺1921＝36歳：次男が誕生。第13歌集「くろ土」、紀行文「静かなる旅をゆきつつ」出版。白骨温泉経て木曾・飛騨に遊ぶ。

水平社結成・1922＝37歳：湯ヶ島温泉に遊び、多くの山桜の歌をつくる。「短歌作法」出版。

関東大震災・1923＝38歳：千曲川上流・秩父方面に遊ぶ。\*第14歌集「山桜の歌」などに円熟の境地。

護憲三派圧勝1924＝39歳：童話集「小さな鷲」。「みなかみ紀行」出版。

治安維持法・1925＝40歳：随筆集「樹木とその葉」出版。沼津市内の新居に移る。別府に遊ぶ。

円本時代始・1926＝41歳：{詩歌時代}を創刊するも、資金続かず、廃刊。千本松原保存に立つ。揮毫頒布のため、妻と北海道旅行。

金融恐慌・・・1927＝42歳：揮毫頒布のため、妻と朝鮮旅行。

共産党事件・1928＝43歳：\*第15歌集「黒松」の原稿整理中に、病臥するようになり、没した。

妻若山喜志子(1888 - 1968)もすぐれた歌人として知られ、牧水没後の「創作」を敗戦まで主宰。